

潮音寺だより

〈ホームページ〉 <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

第 296 号
平成 20 年 6 月
電話 052-671-4831
ファックス 052-671-4856

E-Mail: choonji@aichi.email.ne.jp

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1 -10-11



パンフラワー
作：鶴田偉子

諸法実相

【出典】『法華經』方便品
「唯仏と仏乃能究尽 諸法実相」

覺えず
 憎き石ころも
 鉄道線路には
 役立つ
 敷石となり
 我が行く手
 阻み遮る
 大岩も
 人替愛でる
 枯山水の
 庭石となる
 我が前に
 刻々現れ
 移ろう景色
 それぞれが
 それぞれに
 仏の真実がある

諸法実相しよほつじつどう

今更いつのもなんですが、仏教は宗教であります。では、その宗教とは何かというと、その定義付けがなかなか難しいのであります。仏教・キリスト教・イスラム教のように民族を超えて信仰されている世界宗教もあれば、神道のように日本民族だけに信仰されている民族宗教もあり、宗教個々の相違、しかも、人によっても受け止め方、接し方がずいぶん違つかうです。

さしあたつては、「神・仏など超越的存在や、聖なるものを信じることによつて、安心・幸福などを得ようとする」こと。また、そのための教えと理解していただくのが、一応無難ではなからうかと思ひます。ところが、近年、世界的な傾向ともいわれていますが、科学の進展

に伴い、これまで社会全般にわたつて占めていた宗教の広範な分野が、次第に狭められて来ています。特に、先の大戦以降の日本の場合、宗教は非科学的であるから信ずるに値しないとか、ただ神仏を拜めば、「利益が転がり込んでくる」「たなばた方式」や、賽銭を投げ込めば幸福が「コロン」と出てくる「自動販売機方式」といった、安直な接し方でしか宗教との関わりを持たない人が多くなり、苦難、挫折といった場面に出会つてしまつて、再起不能といった事態になりかねません。不登校、引きこもり、無差別殺人といった由々しき社会現象も、このこととけして無関係ではないはず。

仏教は「仏法」、つまり、釈尊の悟つたこの世の法則(ダルマ)を体

得することによつて、日々、四苦八苦する自分を解放しようとするものです。現代においても、この「仏法」こそが求められると思つてです。ただ、一口に「仏法」といひましても、今日学ばつとしたとき、そのあまりの經典、解説書の多さに辟易へきえきして、頓挫とんさしてしまつ人も多いようです。

ある方が、「仏教を学ぶことは、砂漠を旅するほどの覚悟が必要だ」といわれました。確かに、言い得て妙であります。が、さまよい歩く中、ところどころ巡り会うオアシスにこそ、その醍醐味だいごみがあるともいえます。

では、そのオアシスに相当する「仏法」に、「縁起えんぎ」「空くう」「諸法無我しよほふむが」「諸行無常しよこうむじやう」「諸法実相しよほつじつどう」などといった教義があります。これらは、それ

それが別々なものではなく、全体が分からないと個々も分からないという難しさはありますが、今回は、「諸法実相」についてお話しさせていただきます。

簡単に申せば、「すべて存在するものは、存在する限りにおいては存在する意味がある」ということです。たとえば、毒も使いようによっては薬になります。ですから、毒だから悪い、薬だから良い、あるいは、敵だから悪い、味方だから良いという分別・差別をやめて、あるがままの姿から、真実なるもの、すなわち「仏法」を見極めようという態度が、仏教者の有り様でなくてはならないということです。

ここで、鈴木大拙（1870～1966）という、卓抜たる仏教学者を紹介させていただきます。西洋思想と

東洋思想に精通され、欧米に仏教（特に禅）を伝え、欧米の思想界に少なからず影響を与えた方であります。日本語はもちろん英語での著作・講演録がたくさんあり、その中から私流の要約になりますが、引用させていただきます。

『旧約聖書』の「創世記」第一章の冒頭です。……

はじめに神は天と地とを創造された。地は形なく、むなしく、やみが淵のおもてにあり、神の霊が水のおもてをおおっていた。神は「光あれ」と言われた。すると光があった。神はその光を見て、良し (good) とされた。神はその光とやみとを分けられた。神は光を昼と名づけ、やみを夜と名づけた。夕となり、また朝となった。第一日である。（中略）

神が造ったすべての物を見られたところ、それは、はなはだ良かった (very good)。夕となり、また朝となった。第六日である。……

神は六日かかって天地を創造されたが、出来上がった世界を「瞥（いちめ）されて」「良し (good) 」「はなはだ良し (very good) 」といわれた。

ところが、その世界は核ミサイルのボタンを押せば一瞬に滅びてしまつかもしれない、あるいは、煩惱燃えさかる衆生（しゆじやう）が充ち満ちている、そういう一面をもった世界でもある。それでいて、「良し (good) 」といわれた、その「good」の意味を考えるのが仏教である。そして、「光あれ」といわぬその先の神を捕まえる、それが仏教の極意である。以上、胸がすくほげに「諸法実相」の教え、さらには「空」の教えにもつながる含蓄ある示唆がいただけなのではないでしょうか。

納豆 なっとう

寺院生活の中から生まれ、一般に普及していった食べ物はいくつもありますが、その代表格が「納豆」。大徳寺納豆、浄福寺納豆など、寺の名が冠されているのがその証拠である。

さらには「豆腐」だ。魚や肉を食べなかつた日本の僧侶たちが、もっぱらタンパク源として用いたのがこれ。豆腐はやがて、油揚げ、生揚げ、がんもどき、湯葉へとバリエーション豊かに変身する。

「味噌」もまた寺院で製造されていた。唐の鑑真上人が製法を伝えたとされており、「法論味噌」(焼き味噌を干して刻み、薬味を混ぜて作ったもの)などに、仏教起源の証拠が残っていると考えられている。ちなみにふるふき大根のふるは、法論のつづ。「味噌すり坊主」「味噌

すり小僧」は、台所で働く一番ランクの低い修行僧のこと。これも、味噌がかつてはどのお寺でも造られていたことを物語っている。

『仏教のことは』早わかり事典

雑記

▼阿弥陀堂寄進



京都本山の阿弥陀堂の改修工事に伴う寄進を、次の方々からご応募いただきました。感謝申し上げます。

・小島鏡次郎様	三万円(三〇〇)
・今村利治様	二万円(二〇〇)
・江崎矩之様	二万円(二〇〇)
・江崎君子様	二万円(二〇〇)
・江崎泰久様	二万円(二〇〇)
・木村 寛様	二万円(二〇〇)
・熊澤田鶴子様	二万円(二〇〇)
・酒井栄市様	二万円(二〇〇)

・中森利夫様	一万円(一〇〇)
・濱村優江様	一万円(一〇〇)
・藤井久子様	一万円(一〇〇)
・松田健一郎様	一万円(一〇〇)
・森平慶治様	一万円(一〇〇)
・安井明弘様	一万円(一〇〇)
・安井加代子様	一万円(一〇〇)
・山田 佳様	一万円(一〇〇)
・吉田 甫様	一万円(一〇〇)
・潮章寺	三〇万円(三〇〇)

以上、先月分と合わせ、総額五五万円を本山に送金いたしました。

▼カキツバタ

知立の無量寿寺の境内にある、カキツバタの回遊式庭園へ行ってきました。ただ、アヤメ、カキツバタ、ハナシヨウブ、アイリス、イチハツの区別が???

◆八橋に業平偲び

カキツバタ 沐魚